学生の果物比喩イメージ

——大手前大学学生の事例——

溝口　正　矢野　豪

Japanese Students' Self - images Related to Fruits

—— A Study on the Students at Otemae University ——

MIZOGUCHI Tadashi／YANO Gou

Abstracts

We conducted a questionnaire survey on the fruits chosen to express figuratively their self-image by male and female students at Otemae University. The question is, "Which fruit could you see yourself as ?" A majority of the answers concerning the fruits selected were in the following descending : mandarin orange, apple, grape and peach. However, their favorite fruits for eating were listed as follows : peach, strawberry and mandarin orange. Thus there is no correlation between their favorite fruits for eating and those for building their self-image. The result of no correlation is also obtained for rare tropical fruits including mango, acerlorla, durian, lychee, guavas, papaya, and avocado. The students have a positive image of fruits in variation, from common Japanese fruits to rare tropical ones.

はしがき

果物は通常の料理と異なり概観を見て単純に果物への印象を強めることができる。果物の味が相乗されて果物への愛着が一層加重される。デザートで食べた際の味であったり、果物狩りで見たその有り様であったり、店頭に山積みされている多彩な色調であったり人々には幼い時から馴染み深いものとして果物が存在する。果物への思い入れが個々人で相異することは容易に推測されるのでその事実を基に昨今「フルーツ占い」が登場してきた。それとは別に若者達、とりわけ大学生の果物への思い入れが如何ほどであるか興味が

持たれた。詩人島崎藤村は詩歌に果物を詠込んで、後世においてその詩に接した人々の心を打つ。今回、「自分を果物に喩えるとあなたはどんな果物ですか。」と学生に尋ねてみた。その意図は学生達の果物への思い入れの深さと種類の多様性を掌握したいからであった。著者はすでに学生の抱くおいしい食のイメージ[(1)]、学生による食問題の解決[(2)]を調査し報告した。こうした研究の延長として今回、学生が持つ果物イメージを調査した。若干の果物統計データと共に以下報告する。

本論

果物と島崎藤村：

「まだ上げ初めし前髪の林檎のもとに見えしとき
前にさしたる花櫛の花ある君と思いけり」

島崎藤村詩抄の初恋の一節である。それは彼女への思いと林檎の風情を巧みに描写した注目の若菜集[(3)]である。さらに

「やさしく白き手をのべて林檎をわれにあたへしは薄紅の秋の実に
ひとこひ初めしはじめなり」

初恋のときめきを林檎に擬えて取り上げその思いを凝集して表現した感動の一句である。青春真っ只中の詩人島崎藤村の思いと林檎への思い入れとが表裏をなして読者に迫る。林檎に加えてさらに果物が詠まれている。「秋想」の一句、

「青き葡萄は紫の自然の酒とかはりけり」

葡萄がぶどう酒にかわって行く様を愛情込めて詠んだ。また、中野逍遥を悼む「哀歌」の一句、

「すずしき眼つゆを帯び葡萄のたまとまがふまでその面影をつたへては」

葡萄をモチーフに悲しみをいっぱいに表した。これも葡萄の一句であるが「合唱」には

「やさしからずやにひぼしのぶだうのたまにうつるとき」
「やさしからずやむらさきのぶだうのふさのかかるとき」

と詠んで姉への思いを尽くした。これらはいずれも島崎藤村が最初の詩集として著した若菜集に収録されている。島崎藤村が仙台に移り住んで初めて詩歌の創作に意欲を燃やし、作品を東京の「文学界」に載せていた。島崎藤村作詞「椰子の実」は唱歌になった有名な一節であるが、果物でないにしろ椰子の実への思いを究極の表現とさえ言える取り上げ方である。

このように果物に抱く詩人や作家の感性は通常人に比べられないほどに強いものであろうが、我々もまたことのほか果物には様々な印象を抱く。単においしい果物という理解に留まらず果物の特有の表情は人々の心に入り込んでくる。それでは若者達は果物にどのよ

うな感性を抱くのであろうか。それを知る指標として学生に「あなたは自分を果物に喩えると何でしょうか。」と尋ねて見た。仮にそれを「フルーツ人間」と呼ぶことにして、たとえば「りんご人間」は調査した学生のうち何人いるだろうか、それを調査した。調査対象は過去２年間に亘って総数353名の男女学生である。

フルーツ人間（果物比喩）の分布：

過去２年間にわたって「好きな果物」これを「嗜好果物」の項目に、「自分は○○果物である。」これを「比喩果物」の項目にそれぞれ集計して表した。学生が回答したフルーツ人間を多いものから順に表１にまとめた。トップはみかんを含む柑橘類、ついでりんご、ぶどう、もも、そしていちごと続く。梨をはじめさくらんぼ、スイカ、バナナは次のグループに位置する。そしてさらに、レモン、柿、メロン、パイナップルの順であった。日常口にして好きな果物（表では嗜好果物と表現）は皆それぞれあるが、その果物を「自分は○○果物である。」（表では比喩果物と表現）と回答したとも考えられる。しかし、同時にアンケートした結果は異なっていた（表１嗜好果物）。トップはみかんではなく、ももで

表１　学生が思う自身の比喩果物

番号	果物の種類	比喩果物	嗜好果物
1	柑橘類	70	53
2	リンゴ	58	34
3	ぶどう	28	18
4	もも	27	64
5	いちご	23	56
6	梨	17	36
7	さくらんぼ	14	8
8	スイカ	14	12
9	バナナ	14	19
10	レモン	11	1
11	柿	11	3
12	メロン	9	18
13	パイナップル	9	11
14	キウイ	8	4
15	トマト	4	0
16	ビワ	1	7

ありいちごがそれに続いていた。例えば「自分はりんごである。」と主張しつつもそれを好きな果物としている学生は6割に低下する。また、「自分はトマトである。」と自認しておきながら、トマトが好きだという学生は皆無だった。調査した時期は1月であったので冬の果物を比喩果物として選択していることが考えられた。しかし、「自分はさくらんぼである。」、「自分はスイカである。」と回答している事実は果物比喩が季節にとらわれないていないことを示している。このように学生が抱くフルーツ人間は果物への思い入れが殊のほか強いことを物語っている。

表2　学生が思う自身の柑橘類比喩

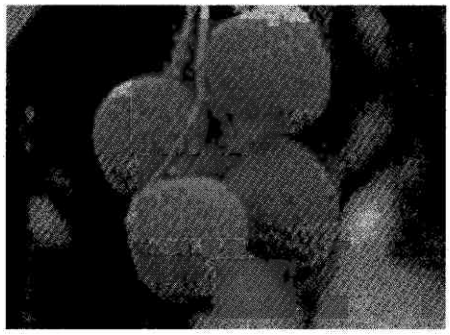
番号	果物の種類	比喩果物	嗜好果物
1	みかん	57	47
2	オレンジ	6	3
3	グレープフルーツ	5	2
4	デコポン	1	0
5	伊予柑	1	1
総数		70	53

表3－1　珍しい果物を比喩した例

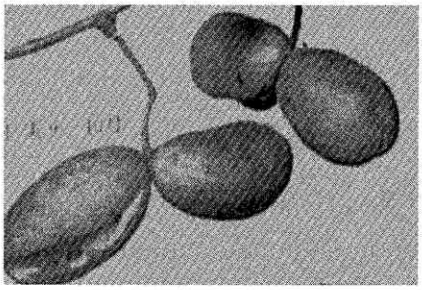
番号	果物の種類	比喩果物	嗜好果物
1	ドリアン*	8	0
2	ライチ*	7	0
3	マンゴ*	5	7
4	アボガド*	4	0
5	ザクロ	2	0
6	いちじく	1	1
7	ブルーベリー	1	1
8	アセロラ*	1	1
9	椰子の実	1	1
10	グアバ*	1	0
11	パパイヤ*	1	0
12	くり	1	0
13	あけび*	1	0

*印：果物写真（表3－2）を参照

表３－２　果物の写真

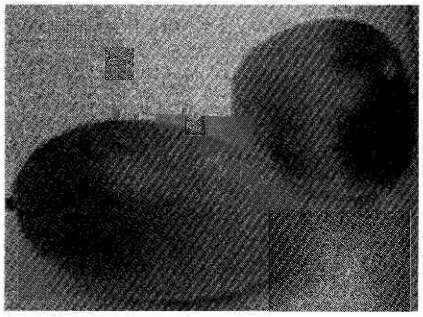


ライチ

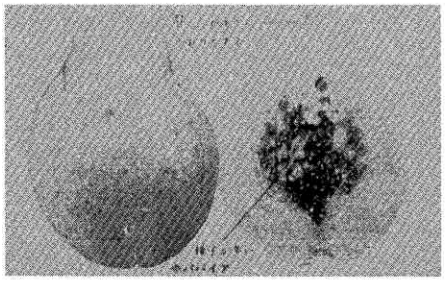


あけび

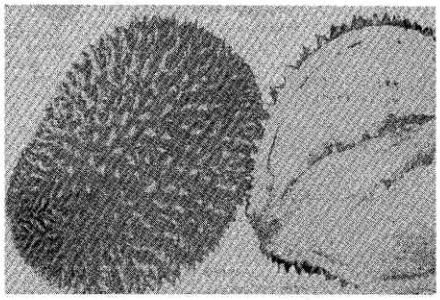
グアバ



マンゴ

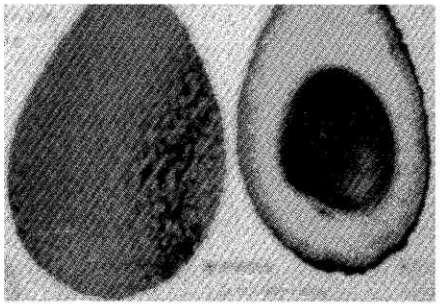


パパイヤ



ドリアン

アセロラ



アボガド

出典：はじめての果樹ガーデニング　小林幹夫

学生が回答した比喩果物は柑橘類がもっとも多かった。しかし、柑橘類といってもその種類によってその概観や味はそれぞれ特有である。種類別に整理した結果、表２を得た。日本本来のみかんは特別にぬきんでて多い。みかんは幼い時から慣れ親しんだ果物だけに、「自分はみかんである。」と考えるのが当然かもしれない。近年年中市場へ出回っているグレープフルーツは外国産でありながら比喩果物としては多く３位であった。「自分はデコポンである。」、「伊予柑である。」とのユニークな学生もいた。東京ならびに大阪の大都市に住むオフィスレディの比喩果物に関する調査結果[(4)]があって（表６）、そこでのトップがやはりみかんであった。双方に類似性があって興味深い。

自分はフルーツ人間であるとの思いを珍しいトロピカルな果物に喩えている学生を表３に示した。ドリアンを嗜好果物としないのに「自分はドリアンである。」との意向をもつ学生が８名もあった。同じくライチも嗜好果物でないにも拘わらず比喩果物にあげている学生が７名もあった。嗜好しない果物でありながら自分はその果物であるとして取り上げた果物はドリアン、ライチに加えてアボガド、ザクロ、グアバ、パパイヤ、栗およびあけびであった。マンゴを嗜好果物とした学生が７名、かつそれを比喩果物とした学生は５名あった。いちじく、ブルーベリー、アセロラ、椰子の実については嗜好果物とした学生と比喩果物とした学生がそれぞれ１名づつあるが同一人ではなかった（表３－１、表３－２に果物の写真）。珍しい果物への強い印象が比喩果物とさせた可能性がある。

表４　比喩果物と嗜好果物とが同一であるとした例

番号	果物の種類	例数
1	もも（ピーチ）	7(1)
2	いちご	4
3	ぶどう	3
4	さくらんぼ（アメリカンチェリー）	2(1)
5	りんご	2
6	梨	2
7	バナナ	2
8	パイナップル	1

嗜好果物が比喩果物であるとする学生を表４に示した。その数は総数に比べると必ずしも多くない。しかし、そんな中でも、ももを嗜好する学生が同時に「自分はももである。」と回答した数がもっとも多かった。りんごを嗜好果物とし、かつ比喩果物とした学生は予想外少なかった。さらにみかんを嗜好果物とし、かつ比喩果物とした学生は一人もいなかった。つまり「自分はみかんである。」と考えているが好みの果物は別なのである。

好きな果物はあるものの自分を果物に喩えられない学生があって、その数は６名であった。アンケート調査総数の1.8%に過ぎないとはいえ、自分を果物に喩えられないことは残念である。

果物購入量の都市別比較：

果物比喩への個人的な印象はそれまでの生活において得た果物の認知である。果物の認知は実際に食べて得たその時の概観や味覚によると推定し果物需要を調査してみた。今回、学生の出身地を考慮して阪神間の都市を抽出して果物の購入量を調査した。大阪市、神戸市、および奈良市を選び、これらと比較するため果物生産都市である長野市ならびに甲府市も調査した。資料は「食生活データ総合統計年報1999年版」[5、6、7]等である。生鮮果物の購入量のもっとも多い都市は神戸市、それに続くこと大阪市、奈良市の順であった。果物の種類ではバナナがもっとも多く、５つの各都市共通であった。りんごの購入量はみかんのそれを抑えて２位であった（神戸市)。しかし、りんご、みかん、いちごの３種果物は等しく需要が多い（５都市共通)。ぶどう、梨、柿は購入量が少ないグループである。表５の８種の果物は我々が一般に常日頃口にするものであり、果物特有の色合い、形状、香りなど知り尽くしている、いわば最も印象の強い果物である。にも拘わらず学生が回答した嗜好果物、ならびに比喩果物はこの都市圏の購入果物と相関性はなかった。つまり学生の抱く果物イメージは各人独特の認知から生まれたものと考えられる。

表５　世帯あたりの果物購入量（2000年、kg/100世帯）

番号	果物の種類	神戸市	大阪市	奈良市	甲府市	長野市
1	バナナ	2.5	2.2	1.8	1.8	1.8
2	りんご	1.6	1.0	1.1	1.1	0.5
3	みかん	0.9	1.0	0.9	1.0	0.9
4	いちご	0.9	1.0	0.8	0.7	0.9
5	ぶどう	0.5	0.5	0.5	0.1	0.2
6	グレープフルーツ	0.4	0.3	0.4	0.3	0.3
7	梨	0.4	0.4	0.4	0.2	0.2
8	柿	0.5	0.3	0.3	0.1	0.1
	生鮮果物総計	11.1	9.8	8.9	8.3	7.6

総務庁家計調査　2000年版

フルーツ人間、学生と勤労女性の比較：

農林中央金庫は「東京、大阪の勤労女性の20代～30代にアンケート」し彼女達のフルー

ツライフを調査した。[4] 総数は400名、半数ずつ東京と大阪に割り当てた。そこには、好きな果物、果物に準えた自分、新鮮な果物のイメージを持つタレント、有名人、１週間に食

表６　女性が思う自分の比喩果物（20代～30代）

番号	果物の種類	総数に対する％
1	みかん	15.3
2	りんご	12.8
3	もも	9.5
4	いちご	7.5
5	スイカ	5.5
6	さくらんぼ	4.3
7	レモン	4.0
8	バナナ	3.8
9	グレープフルーツ	3.5
10	メロン	3.5

食生活データ　総合統計年報1999年版

表７　女性が好む果物（20代～30代）

番号	果物の種類	総数に対する％
1	いちご	20.0
2	みかん	11.3
3	メロン	9.3
4	もも	7.5
5	梨	7.3
6	スイカ	6.0
7	グレープフルーツ	5.3
8	りんご	5.0
9	バナナ	4.8
10	ぶどう	3.8
11	柿	3.5
12	キウイ	2.8
13	さくらんぼ	1.8
14	夏みかん	1.8

食生活データ　総合統計年報1999年版

べる日数、１日中に食べる回数、購入頻度、購入場所、果物を食べたくなる時、果物を食べる理由、果物を使った料理の有無、洋食、和食、および中華にマッチする果物、好きな国内産果物、外国産果物等について整理されている。それを表６ならびに表７に掲げた。比喩果物と嗜好果物についてそれぞれ学生と若い女性とを比較するとおおよそ次のようになる。

若い女性の比喩果物はみかんがトップで次にりんごである。この順位は学生と一致していた。しかし、学生は比喩果物としてぶどうを高頻度で回答しているのに対し女性はぶどうを回答していない。一方好きな果物、いわゆる嗜好果物の比較では学生はもも、いちご、みかんの順であるのに対して女性は、いちご、みかん、メロンの順であった。ももが学生に好かれ、いちごは女性に好かれている。ここでも学生と女性との間に不一致があった。

フルーツ占いとの関係：

上平栄一郎は理論心理学と社会心理学、営業心理学等を専門的に学び、四柱推命や九星占い、西洋占星術をベースにフルーツ占い（果物占い）のサイトをインターネットに開設し、すでに1000万のアクセスを頂いた[8]と報じている。同氏はまたフルーツ心理学を執筆中とのことであるが、比喩果物として多い順を次のように発表した。キウイ人間、スイカ人間、チェリー人間、ぶどう人間、パパイヤ人間であった。学生に多くみられたみかん人間は７位、もも人間は10位だった。また、学生に多かったリンゴ人間は上平栄一郎の報告にはない。学生ひとり一人について性格や長所などを別途調査すれば今回のデータは果物がもつ特徴と学生の性格とを関連でけることが可能になるかも知れないが、学生のプライバシーが絡むのでこの論文ではこれ以上踏み込まないことにした。なお、上平栄一郎自身はパパイヤ人間と称しその性格付けは理論的で頭が切れるタイプ、しかし、理屈っぽいと述べている。

まとめ

「自分を果物に喩えるとどんな果物ですか」、学生にアンケートした。その狙いは若者、とりわけ学生のフルーツイメージを探ることである。その結果、トップは柑橘類であった。自分はみかん人間であり、オレンジ人間だとの主張である。りんご人間、ぶどう人間が続いて多く、一方珍しいトロピカルフルーツ人間もあった。ドリアン人間、グアバ人間、アセロラ人間、等々である。総じて学生のフルーツイメージは多彩であり、まことに好ましいとの印象を受けた。

謝意

大手前大学の学生にお願いしてアンケートを実施した。協力頂いた学生諸君に謝意を表する。

文　献

1　大手前大学社会文化学部論集　第２号
2　大手前大学社会文化学部論集　第３号
3　島崎藤村自選　藤村詩抄　岩波文庫
4　食生活データ、総合統計年俸　1999年版　食品流通情報センター
5　食生活データ、総合統計年俸　2000年版　食品流通情報センター
6　食品界資料、統計　2001年食料年鑑　日本食料新聞
7　食生活データ、総合統計年俸　2002年版　生活情報センター
8　上平栄一郎　UeDaira　http://www.uedaira.com/

キーワード：比ゆ　好み　消費量　学生　果物
Keywords：simile, favorite, consumption, student, fruit